

花ちゃん・オー君・モンタ博士・フツ博士のかくかくド探立ててく5

国立市立国立第七小学校

平成29年9月14日 NO.46 (446)



ガマ

オー君 「うわあっ！何だこりゃ？とてもおもしろい形だな。」

花ちゃん 「不思議なものですね。ソーセージみたいですね。」

オー君 「色が黄色やオレンジ、水色だったらアイスクャンデーみたいにも見えるね。」

花ちゃん 「何だか植物みたいだけど・・・あ！ひょっとしてこれは、『ガマ』という植物ですか。わたし、初めて見るわ。」

モンタ博士「そのとおり。これが有名な昔話の『因幡の白うさぎ』にでてくる『ガマの穂』といわれるものだよ。ガマは漢字で『蒲』と書くんた。」

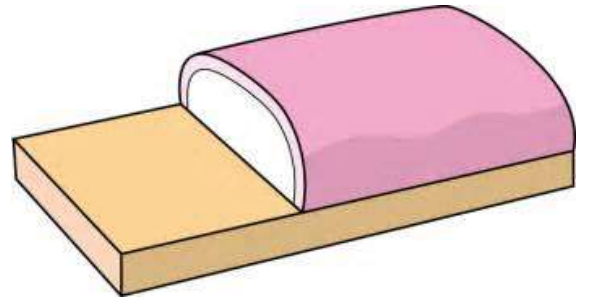
オー君 「かわった植物ですね。ソーセージやアイスクャンデーみたいに見えますね。」

モンタ博士「そうだね。昔の人もいろいろな食べ物を連想したらしいよ。銚子のように見えるガマの穂先は『かまぼこ』といわれていたんだよ。かまぼこの語源はここからきているんだよ。」

花ちゃん 「でも、へんですね。かまぼこって板にくっついているような、板に盛られて

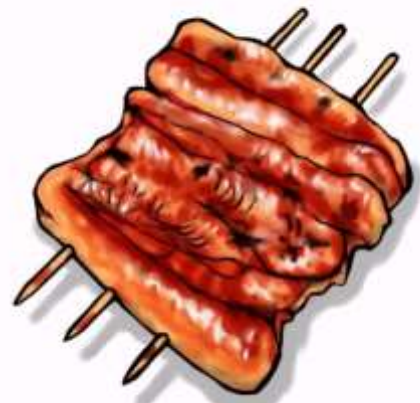
いるようなものですよ。」

モンタ博士「ところがどっこい。昔は、かまぼこはちくわと同じように、棒のまわりにも盛られていたんだ。だから、かまぼこは、漢字で書くと『蒲鉾』なんだ。」



蒲鉾(かまぼこ)

モンタ博士「さらに、食べ物のお話を続けるけど、ウナギのかば焼きというものがあるだろう。あれもガマからきているんだ。今では、ウナギは開いて焼くけども、昔は筒切りにして、そのまま棒にさして焼いていたんだよ。その形もガマの穂にそっくりだったんだ。それで、かば焼きも漢字で書くと『蒲焼き』で、蒲の文字があるんだ。」



蒲焼き(かばやき)

花ちゃん「食べ物のお話ばかりになってしまいましたね。モンタ博士。」

モンタ博士「ごめんごめん。それでは食べ物ではなくてこのガマを『キツネのろうそく』とよぶ地域もあるそうだ。ガマの穂をアルコールなどにひたして火をつけたりしたらしい。さらに、よく見るとガマの穂はたくさんの綿毛みたいにみえるだろう。だから、



蒲団(ふとん)

ふとんに入れたらしい。それで、ふとんも漢字で書くと『蒲団』になるんだ。」

オー君「『蒲鉾』『蒲焼き』『蒲団』というのはわかりました。ところで、そもそもそのガマの穂というものは何なんですか。植物のどの部分なんですか。」

モンタ博士「そうだったね。そのお話はまた明日ね。」